

ルーン文字石碑Sm 42と地方権力

アンデス・カールキビスト

本稿ではスモーランド (Småland) 地方 (スウェーデン南部に位置する) のルーン石碑の一つを分析する。スモーランドの意味は「小さい国々」で、名前の通り小さい「国々」が集まっていた場所である。そこに存在した多くの豪族は各「小国」のリーダー (言い換えれば「王」) の立場を目指していた。北欧では10世紀から国家形成が始まり、このプロセスでデンマークは早くに王権下で統一されたが、スウェーデンの統一はそれより年数がかかった。スモーランド地方はデンマーク王国と、その後形成されたスウェーデン王国との間にあった為、豪族は両王権と交流しながら、自分なりの立場の強化を目指していた。ルーン文字石碑Sm 42 (名称) は西スモーランドのフィンヴェデン (Finnveden) 「国」にあり、10世紀の地方権力闘争を背景にしながら建てられた。史料が非常に限られた時代で、当時のスモーランド地方についての多くは明らかになっていないが、Sm 42を読み解くことでこの地方の知られていない歴史状況の一部を覗くことができよう。

1. 歴史的な背景

西ローマ帝国の崩壊 (5世紀末) から始まるヨーロッパ大陸の中世史と違って、スウェーデンの中世史はバイキング時代の終わり (11世紀後半) から始まる。その時のスウェーデンは幾つものland (クニ) に分かれており、特にスモーランドはその地形の影響もあって、限られた地域で多くの豪族がそれぞれ小さなクニグニを治めていたので、そのクニグニには個々の風土があった¹⁾。それはスモーランドの特徴の一つと言えよう。スウェーデンに存在していた他のクニグニはもっと広い範囲を統一し、その広い地域に同様の風土があった²⁾。

10世紀～12世紀のスウェーデンの史実を語る資料は非常に少ない。最も古い文献は地方の法律書である。スモーランドの法律書もあったはずだが、今はその一部しか残っていない。それは教会に関する記述であるが、この部分はおそらく古くとも13世紀の終わり頃に編集されたと思われる。この記述から判断すればスモーランドの法律書は元々ティオヘラッド (Tiohäräd) の法律書で、ティオヘラッドはスモーランドにあった3つのクニグニが合併した後にできた地名であると判断できる。これらの3つのクニグニの一つはフィンヴェデンだった為、このクニ

1) Liedgren 1980 : 10/236-237. Lindkvist 2015 : 33-39. 英語の「チーフ」や「チーフダム」と記述する方が現状に相応しいと言えようが、本稿では日本の日本史書籍で使われている言い方、「豪族」 (=チーフ) や「クニ」 (=チーフダム) という言葉を利用する。(チーフダムについて多くの研究がある。例えばCarneiro 1981 やPauketat 2007.)

2) Larsson 1980 : 16/304-305.

がスモーランドの中で大切なクニの一つであったことが窺える³⁾。

先述のように文献は少ないが、大切な史料の一つとして石碑が存在する。それがルーン文字石碑である。バイキング時代（8世紀末～11世紀後半）の石碑は北欧の各地にあるが、ノルウェーは約50個で少なく、デンマークは約250個でもう少し多い、しかしスウェーデンの約2500と比較にならない⁴⁾。これらスウェーデンの石碑の大半はウップランド（Uppland）とセーデルマンランド（Södermanland）（メーラレン湖の周辺）に存在し、スモーランドには約150個ある（図1）。スウェーデンのルーン文字石碑は『Svenska runinskrifter』というシリーズで紹介されている。それは地域ごと1巻ずつ出版されており（但し、石碑の多い地方は数冊）、1巻目は1900年出版で、現在までに14巻が出版済みである。ただ、この長い年月の間に研究方法は改良され、写真の技術は進化し、徐々に新たな石碑発見もあるので、1930年代出版のスモーランド巻のような古い巻には間違いが多く、完璧な参考文献と言い難い。それでも、『Svenska runinskrifter』というシリーズは現在ではスタンダードな参考書になっており⁵⁾、本稿もこの参考資料に依っている。



図1：南スκανジナビア

バイキング時代のルーン文字石碑に書かれた文章は短く、20個以上の単語が使用された長い文章は稀で⁶⁾、大半は形式的の文言が刻まれている⁷⁾。それでもバイキング時代のスウェーデンの史実を知るにはこれら石碑は非常に重要で、ユニークな史料である。本稿はその石碑の一つに注目し、フィンヴェーデンの一部の小さな地域を検討する。

2. Sm 42

『Svenska runinskrifter』では掲載されている全てのルーン文字石碑に地域名の省略記号と掲載番号からなる記号をつけている。Sm 42はスモーランド巻42番で、この碑石はスモーランドのユンビ（Ljungby）市にあり、リスビ（Ryssby）湖の西沿岸から75メートルに位置する。石碑の西側に共同墓地があり、その中に幾つかのバイキング時代の墓もある⁸⁾。

3) HolmbäckとWessén 1979 : 5/LXXVII-LXXIX.

4) Snædal 1994 : 15-23.

5) Källström 2005.

6) Bollaert 2016 : 37-41.

7) Bianchi 2016 : 11.

8) Kinander 1935 : 130-131.

2.1 文章

日本の上代文学の漢文を読み解く際と同様、石碑に限らず北欧のルーン文字文学を解読する方法がある。漢文を読み解く際に数万の漢字を検証するのに比べてルーン文字のアルファベットは容易である。ただ、バイキング時代のアルファベットは16箇のルーン文字しかなかったが、地域や時代によって表記のバリエーションがあり、更には省略文字も多くある。したがって解読しにくいところはルーン文字石碑にもある。以下のアルファベット記述はルーン文字をアルファベットに当てはめた表記である。(ルーン文字研究のルールにおいて、ルーン文字をアルファベットで記す際、それは常にボールド体アルファベットで記されることになっている。)

Sm 42の石碑の高さは2メートル、ルーン文字は石の横、平行に2本の行(下から上へ)で刻まれている(写真1)。この石碑のルーン文字の大きさは一文字約12センチだが、石上部が細くなるにつれて、文字も次第に小さくなっている。石碑は全文字62墓御が刻まれているが、その書き方は、1行目が1から27、2行目が28から58で、59、60、61、62の文字は1行目の27個目の文字上に上から下へ向け刻まれている。全ての文字を2行で記す記すことが出来ず、最後4文字を1行目のスペースに刻んだとみられており、それが下記行目である。単語と単語の間に、点(:)又は「×」がある⁹⁾。



写真1: Sm 42。石碑のルーン文字はチョークで書き込まれている。Kinander 1935.

tumi risti stin þansi iftir asur
brupur sin þan ar uar ikibari hrhls ku
nuks

Sm 42に刻まれている文字は読みやすいが、45番目の文字のみ解読し難い。この文字はi(ルーン文字のi)に見えるが、『Svenska runinskrifter』のスモーランド巻を編集したKinanderはこの文字を刻んだ職人は当初間違っ、iを刻んだが、そのあと修正するのにもう一面を足したと判断し、正しくはi(1)ではなく、s(4)として解読している。Kinanderの説は当時の1930年代当時には通説ではなかったが、現在は反論はない。

2.2 解読

漢文の文字を判読したのち書き下すのと同様に、北欧の学者もルーン文字自体を判読した後、古語に翻字する。バイキング時代の古語は北ゲルマン系であり、古デンマーク語と古スウェーデン語は東の北ゲルマン語であり、両語の文章は似ているが、発音には幾つかの違いがあった¹⁰⁾。(下記イタリック体ローマ字記述は翻字。)

9) Kinander 1935 : 131.

10) Wessén 1992 : 9-10.

- tumi** 男性の名前, 単数, 主格。Sm 42ルーン文字石碑の文章は前半と後半があり, **tumi**は前半の主語である。古デンマーク語の*Tumi*で, 古スウェーデン語で*Dōmi*¹¹⁾。
- risti** 基本動詞で(規則的な語形変化をする), 古スウェーデン語で*reisa*。意味は「建立」¹²⁾。
- stin** *steinn* (*steinn*からの進化) という単数の男性名詞で, 意味は「石」。対格なので, 古スウェーデン語で翻字すると*stein*¹³⁾。
- þansi** 先述の名詞(**stin**)を指す指示詞で, 単数男性の対格になる。古スウェーデン語で*þænne*になるが¹⁴⁾, ここではそれより古い形が記されている¹⁵⁾。意味は「この」。
- iftir** 前置詞。古スウェーデン語の*æftir*であり, 意味は「記念に」¹⁶⁾。この前置詞は文章内の他の単語に影響を与え, 固形変化を起こす。*æftir*は死者を指す場合には対格になる¹⁷⁾。
- asur** *Assurr*という男性の名前で, 単数の対格なので翻字で*Assur*¹⁸⁾。この名前の意味は「回答する者」¹⁹⁾。
- brūþur** 古スウェーデン語の*brōþer*で, 意味は「兄弟」。単数の男性名詞で, 対格なので翻字でそのまま*broþur*²⁰⁾。
- sin** この所有代名詞は文章前半の主語である**tumi**を指し, **iftir**の影響で対格になる。**brūþur**は単数の男性名詞なので**sin**はそれに従う。翻訳の際, この言葉を省略しても良いが, 意味は「彼の」。
- þan** 指示詞。**tumi** (*Dōmi*)の兄弟である**asur** (*Assur*)は文章後半内の主語である。**þan**という指示詞は**asur**を指すので, 単数男性形になり, 翻字で*þān*。主格であるが, 対格と同様の綴りになる²¹⁾。
- ar** 関係代名詞。多くの古スウェーデン語は現代語に通じるが, この代名詞は古北ゲルマン語で*er* (*es*の進化)。古スウェーデン語で*ær*になるが, 現代スウェーデン語で*som*といい²²⁾, 変化しない²³⁾。
- uar** 助動詞。古スウェーデン語の*vara*という助動詞はここでは単数の第三人称の過去形になる²⁴⁾。意味は「成る」。
- ikibari** Kinanderの説に従い*s*ではなく, *i*として読み解く場合, 可能な解釈は*ikke pari*「比較対象にならない」(二人を比較する場合)であるが, この仮説に二つの疑問点がある。

11) Peterson 2007 : 56, 222.

12) Hellquist 1970 : 828.

13) Palm 2004 : 433. 同化の影響で*nR*は*nn*になる (Wessén 1992 : 97)。(Wessénは*steinn*の代わりに*stenn*の綴りを使っている)。

14) Hellquist 1970 : 140.

15) Wessén 1992 : 118.

16) Hellquist 1970 : 174. 古スウェーデン語の*f*は*t*の前に来るときしばしば*p*に変化するので, *eptir*と翻字することも可能 (Wessén 1992 : 46)。

17) Heggstad他 1975 : 95.

18) Peterson 2007 : 22.

19) Eldblad 2002 : 91.

20) Wessén 1992 : 100.

21) Wessén 1992 : 117. Hellquist 1970 : 139は*dxæn*に翻字する。

22) Hellquist 1970 : 174; Heggstad他 1975 : 95.

23) Wessén 1992 : 120.

24) Wessén 1992 : 134.

(1) **iki**と**bari**の間にこれは二つの単語を示す「:」或いは「×」が刻まれていない。(Sm 42の全ての単語と単語の間には必ず「:」か「×」があるためこの部分だけが例外となってしまう)。(2) *par*という単語は「比較対象」を記す言い方では使われず、他の古北ゲルマン語や古スウェーデン語の史料には例はなく²⁵⁾、もっとも古い記録はだいたい後の17世紀のものである²⁶⁾。

ルーン文字石碑を刻んでいた職人たちは殆ど間違いを起こさなかったようだが²⁷⁾、Kinanderの解釈は魅力的ではある。この説では**ikibari**の最初の**i** (**l**) は**s** (**h**) の書き違いであり、本来は**skibari**であったとしている。**skibari** (翻字は *skipari*) という単語は古スウェーデン語で確認でき、水夫を指す²⁸⁾。**skibari** は男性名詞で、単数の主格になっているので文章後半の主語である**asur** (**þan ar uar**) を文法的に指すことができる²⁹⁾。この単語は二つの石碑にしか刻まれていない。それがSm 42とSö 171で、後者の**skibari**は闘士の任務を持つ水夫を指す³⁰⁾。古スウェーデン語の*skipari*は幾つかの意味があったことと史料から伺える。13世紀後半の『Björköätten』に載っていた*skiparän*という単語は船主を指すが³¹⁾、14世紀の半ばの『Magnus Erikssons stadslag』に載っていた*skipari*は水夫を示す³²⁾。

hrhls これは**Haraldr**という男性の名前と思われ、属格の単数形と一致する。書くスペースが限られた場所に刻まれた文字なので、刻む職人が名前の母音および子音の**d**を省略したものと推測できよう。ルーン文字文章で**s**の前の**d**はよく省略される³³⁾。**h** (*****) の3画の中に**a** (**+**) の2画が入っているため、これらの母音は省略されても問題ないと刻む人が判断したのだろう。この名前は多くの石碑に掲載されている³⁴⁾。次の単語を考慮に入れるとSm 42の**Haraldr**は王を指すことは明らかである。10～11世紀のデンマークに何人かのハーラルという王が王座に就いていたので、Sm 42のハーラル王が具体的に誰を指すかは不明だが³⁵⁾、下記の2.3の論証で本稿ではハーラル1世として考えを述べている。

kunuks スペースがなくなったことから、この単語は2つに分けられて刻まれている。2行目の末尾に**ku**、そして1行目の上に、上から下に向かって、**nuks**。ここでは男性名詞

25) Heggstad他 1975 : 328参照。

26) *Svenska akademins ordbok*, 「pari」 (https://www.saob.se/artikel/?unik=P_0211-0149.2nzj&pz=3) .

27) Lagman 1989 : 27-28, 32.

28) Hellquist 1970 : 933.

29) Heggstad他 1975 : 380.

30) Lindkvist 1999 : 63 (注28) . 碑石Sö 171は保存状態が悪く**ski..ra**しか読めない。Sm 42とSö 171には**skibari**という単語以外に共通点はない。Sö 171のルーン文字は、そこにもともと存在していた自然の天然岩石に刻まれ (建立された石ではない)、そのルーン文字は装飾のように描かれた「ルーンの動物」(蛇の体のような籠) の中に刻まれており、岩石の真ん中に十字架がある。(Sm 42も十字架を持つが、文章上にある。) Sö 171には詩が刻まれ、王について記述はない。上記はBrate 1924 : 132-133, 図12; BrateとWessén 1932, 図76による。

31) HolmbäckとWessén 1979 : 5/487-489. 他の解釈によると、*skiparän*は船で商品を運び、その船において水夫の役割も持つ商人を指す (Hasselberg 1980 : 15/351)。『Björköätten』の編集年はLindkvist 2015 : 120-121による。

32) Yrwing 1980 : 6/159. 『Magnus Erikssons stadslag』の編集年はLindkvist 2015 : 107による。

33) Peterson 1994 : 68.

34) Peterson 2007 : 106.

35) Imer 2016 : 184; Lindkvist 1999 : 47 (注14) .

の*konunger*属格で単数形³⁶⁾。(g/kの前のnはよく省略される³⁷⁾) 単語の意味は言うまでもなく「王」。

上記の説明に従うと、以下のような古スウェーデン語の翻字になる。

Dōmi reisti stein þænne æftir Assur broþur sin þān ær var skipari Haralds konungs.

文章の前半は問題なく右記の解説になる。「*Dōmi*は兄弟の*Assur*の記念にこの石を建立した」。ikibariの第1個目の文字以外は文章の後半の解説にも問題はない。「[*Assur*は] ハーラル王の水夫だった」。(ikibariのままでも可能とする「ハーラル王の比較対象にならなかった」との解説は疑わしく、ここでは適応しない。)

2.3 文章内容の解釈

石碑に刻まれた文章は始めのうちは単純である。*Assur*という兄弟を記念して*Dōmi*はこの石碑を建立した。この*Assur*はハーラルという王に対して(ある種の)水夫として奉仕した。石碑にみえるハーラル王は誰を指すかを判別することで、Sm 42の歴史的な意義も確認できると推測される。まずは石碑のハーラル王を考察し、この碑石はいつ建立されたか見極めたい。

KinanderによるとフィンヴェデンにはSm 42より古いルーン文字石碑が少なくない。氏の解釈ではSm 42は11世紀のものであると推定されている。また、当該石碑に刻まれたm(Υ)のルーン文字は新しいタイプだと主張しており、この石碑はバイキングの航海が終わった1066年より古いものになるので³⁸⁾、1030年~1066年に建立されたものだと論じている。

Kinanderがスモーランドのルーン文字石碑を概観した1930年代前半にはルーン文字自体の形や刻み方の分析から石碑の年代を決定する研究方法が一般的だったが、信頼性の問題があるため現在は使われていない³⁹⁾。代わりに、現在のルーン文字石碑研究ではルーン文字ではなく、石碑の装飾、特にルーン動物(スウェーデン語でrundjur, 身体は蛇のように長細く、頭・尻尾・足があり、龍を言う)のデザインを基準に年代を決定する⁴⁰⁾。このルーン動物は石碑に曲線や弧をもちいて描かれ、ルーン文字自体はこのルーン動物の中に刻まれる。ただし、Sm 42にはルーン動物が描かれていない。代わりに2本の真っ直ぐの「リボン」状の中に文章が刻まれている(1行目と2行目)。これらの「リボン」の終わりに(つまり、石の最上部)十字架がある。このような真っ直ぐの「リボン」のスタイルはRAKといい、ルーン動物を持つ石碑より古いものだと判断されている。このRAKというデザインは970年代~1020年まで使われていた⁴¹⁾。

上記の研究方法に従えば、Sm 42が建立された時代に該当するハーラル王は2人しか存在しない。その1人は有名なハーラル1世(摂政は958~986年)であり、もう1人はあまり知ら

36) 王について刻まれた石碑のほとんどでそのタイトルと名前の両方が刻まれており、Sm 42はそれに従っている。U 11は唯一の例外であり、名前を述べず*konunger*のみを記す(LarssonとFridell 2013: 102)。

37) Peterson 1994: 68.

38) Kinander 1935: 133.

39) ElmevikとPeterson 1989: 8-9; Gräslund 1991: 113.

40) この研究方法には批判もある、例えばKällström 2007: 68-76.

41) Gräslund 2003: 588.

れていないハーラル2世である（摂政は1014～1018年）⁴²⁾。オットー1世（神聖ローマ皇帝）の死後に神聖ローマ帝国と10年間（973～983年）戦争したハーラル1世は主にデンマークより南にある地域に注力し、陸上で闘っていた。一方で海軍を集め、イングランドに海軍を出兵したハーラル2世はハーラル1世より水夫活を多用した。しかし、実はハーラル2世は自分の兄の命令で海軍を集めた。兄は1016年にイングランドの王になり、そして1018年にクヌート1世としてデンマークの王になった上に1028年にはノルウェーの王座にも就いた⁴³⁾。Assurがハーラル2世よりも優れた兄の下で水夫を務めたならば、恐らくDômiがハーラル王ではなく、クヌートと刻んだであろう。が、そうせず、ハーラルの名を刻んだということは、つまり、Sm 42は刻まれたハーラル王はハーラル1世を指すものと推測できる⁴⁴⁾。

ハーラル2世がイングランドに出動させた海軍はクヌートが率いた。その海軍にAssurのような水夫は間違いなく必要だった。しかし、そうであればDômiは「クヌート（王）」と刻み、Assurが北欧のもっとも有力な権力者の下で務めた人物だったことを石碑通じて人々に伝えたいだろう。実はハーラル2世説にはもう一つの問題がある。Sm 42のRAKという装飾はGrönlundの研究では970年代から1020年まで使われていたとされるが、Grönlundはスモランド地方より更に北に位置するメーラレン湖の周辺にある石碑の分析によってこの時期を決定した⁴⁵⁾。しかし、当時の北欧の流行りはデンマークから次第に北東に広がっていたので、デンマークのすぐ隣に位置していたフィンヴェデンではより早い段階でRAKの流行りが終わり、次の流行が始まったはずで、Sm 42は1020年どころか、ハーラル2世（1014～1018年）の在任期よりも更に早い年代に建立されたことと論じたい。

南方の神聖ローマ帝国と闘っていたハーラル1世にとっては水夫より歩兵や騎兵の方が必要だったと言えるかもしれないが、デンマークは海に囲まれ、多くの島々を持つ国なので航海の技術に慣れている水夫もあくまでも欠かせない人材であったに違いない。その上、ハーラル1世は神聖ローマ帝国に限らず、南スカンジナビアに拠点を持っていた他の豪族や小さな王とも闘っていた。この継続的な勢力争いの効果でハーラル1世はエーレスンド海峡（現在デンマークとスウェーデンの間にある海峡）の両沿岸で広い地域を統一できた⁴⁶⁾。更には大きな街であったダルビーヤルンドを作り、そしてトレレボルイの旧城の築城を支持した人物であったとも言われている⁴⁷⁾。果たして、本当にそこまでの大きな権力を持つ人物であったかは、定かではないが、エーレスンド海峡の西側のすぐ近くに位置しているフィンヴェデンに大きな影響を与えていたことは否定できない。

Sm 42はリッスピ湖のすぐそばに建立された。この湖はヘルゲ川に繋がっており、その先がスコーネの東沿岸にあるハーネ湾に繋がっていることはバルト海からの何らかの影響があった

42) ハーラル1世の名前はハラルド・ゴルムスソンであり、Wetterberg 2016: 218、ハーラル2世はハーラル・スヴェンセンである、Varberg 2017: 220。

43) Varberg 2017: 220-222, 235-236; Wetterberg 2016: 221。

44) Kinander 1935: 135及びJansson 1984: 86の説ではSm 42がハロルド1世を指す。Varberg 2017: 236が指摘するように、ハロルド1世は1035～1040年にイングランドの王だった。（しかし、デンマーク王にならなかった。）ハロルド1世はデンマーク人で名前はHarald（ハーラル）であるが、イングランドの王だったので英語の発音のHarold（ハロルド）で知られている。Grönlundの研究法に従う本稿がSm 42の建立を970年～1020年とされ、ハロルド1世の摂政期間と一致しないため、KinanderとJanssonの説を適応しない。

45) Källström 2007: 68。

46) Rosborn 1999: 180。

47) Rosborn 1999: 172によるとハーラル1世はダルビーとルンドの創立者である。Skansjö 1997: 46によるとハーラル1世はトレレボルイの旧城も建造した。

かもしれないが、Sm 42が建立されたリッスピ湖はその西沿岸もラガン川までそう遠くないことから地形的に重要な性格を持っている。ラガン川河口には北海に繋がるカテガット湾があり、北海に繋がるこの湾は、つまり、デンマークやイングランドの連絡路であったことから、Sm 42が建立されているラガン盆地はその地理的利点から裕福な地域であった⁴⁸⁾。バイキング時代後半のラガン盆地はスモーランド西部の中心地になり、ここの豪族にとってラガン川を通じ、その先にある世界（土地）との繋がりを示すことは自らの権力を周りに知らしめる大切な行動の一つになっていた⁴⁹⁾。この歴史的な背景を考慮すれば、Sm 42の短い文章でもハーラル1世を述べることは大切である。亡くなった兄弟が当時のスカンジナビアで最も権力を持っていたハーラル1世と繋がりがあったことを示すことで*Dömi*はラガン盆地で自分の社会的位置を強めることができた。これがSm 42の真の建立目的であろう。

4. 結び

Sm 42の再発見から長い年月は経た。最初の記録はJohan Peringskiöld (1654～1720年)だと思われる。Sm 42のルーン文字は保存状態が良く、石碑も元々建立された場所に継続して存在し、様々な重要な歴史的な情報を伝えている。凡そ2500個存在するスウェーデンのルーン文字石碑の内のたった一つであるSm 42は文書の長さもわずか14単語であるにも関わらず、様々な史実を供給する。Sm 42に触れている研究が確かあるが決して多くない。当石碑を含め、ラガン盆地の全ての石碑を分析する総合的な研究はまだ行われていない。ラガン盆地全ての石碑の調査が実現されるならば、南スカンジナビアの国家形成の状況について様々な新たな理解が生まれてくるだろう。

5. 参考文献

- Bianchi, Marco. 2016. "Runstenen som socialt medium". *Studier i svensk språkhistoria: historia och språkhistoria* 13: 9-30.
- Bollaert, Johan. 2016. *Runstenar längs vägen: en undersökning av samband mellan runstenarnas placering och utformning*. Uppsala: Institutionen för nordiska språk. (未出版の修士論文)
- Brate, Erik. 1924. *Södermanlands runinskrifter, första häftet*. Stockholm: Kungliga historie och antikvitetsakademien.
- Brate, ErikとElias Wessén. 1932. *Södermanlands runinskrifter, andra häftet*. Stockholm: Kungliga historie och antikvitetsakademien.
- Carneiro, Robert L. 1981. "The chiefdom: precursor of the state". Grant D. JonesとRobert R. Kautz (編). *Transitions to statehood in the New World*. Cambridge: Cambridge University Press. 37-79.
- Eldblad, Anita. 2002. "Personnamnen i Jönköpings läns runinskrifter". Jan AgertzとLinnéa Varenius (編). *Om runstenar i Jönköpings län. Jönköping: Jönköpings läns museum*. 79-92.
- Elmevik, LennartとLena Peterson. 1989. "Projektet de vikingatida runinskrifternas kronologi". *Runrön* 1: 7-11.
- Gräslund, Ann-Sofie. 2003. "Runensteine". Von Johannes Hoops (編). *Reallexikon der Germanischen Altertumskunde*. Berlin: Walter de Gruyter. 585-591.
- 1991. "Runstenar: om ornamentik och datering". *TOR* 23:113-140.
- Hansson, Martin. 2000. "Visingsö och Bolmsö: öar i fokus". P. Nicklasson (編). *Visingsöartiklar: Tolv artiklar*

48) Rosborn 2004 : 109.

49) Hansson 2000 : 133.

- om Visingsö från bronsålder till medeltid. 129-140.
- Hasselberg, Gösta. 1980. "Sjörätt". John Danstrup (編) . *Kulturhistorisk leksikon for nordisk middelalder: fra vikingetid til reformationstid*. Köpenhamn: Rosenkilde og Bagger. 15/350-356.
- Heggstad, Leiv と Finn Hødnebo と Erik Simensen. 1975. *Norron ordbok*. Oslo: Det norske samlaget.
- Hellquist, Elof. 1970. *Svensk etymologisk ordbok*. Lund: Gleerups.
- Holmbäck, Åke と Elias Wessén. 1979. *Svenska landskapslagar*. Stockholm: Awe/Gebers.
- Imer, Lisbeth M. 2016. *Danmarks runesten: en fortælling*. Köpenhamn: Nationalmuseets og Gyldendal.
- Jansson, Sven B. F. 1984. *Runinskrifter i Sverige*. Stockholm: Almqvist & Wiksell Förlag.
- Kinander, Ragnar. 1935. *Smålands runinskrifter*. Stockholm: Kungliga vitterhets historie och antikvitets akademien.
- Källström, Magnus. 2007. *Mästare och minnesmärke: studier kring vikingatida runristare och skriftmiljöer i Norden*. Stockholm: Stockholms universitet.
- 2005. "Gamla och nya vägar till Sveriges runinskrifter: en kritisk översikt av källpublikationerna för svenska runtexter". *Historisk tidskrift* 125 (2) :300-308.
- Lagman, Svante. 1989. "Till försvar för runristarnas ortografi". *Runrön* 1 :27-37.
- Larsson, Lars-Olof. 1980. "Småland". John Danstrup (編) . *Kulturhistorisk leksikon for nordisk middelalder: fra vikingetid til reformationstid*. Köpenhamn: Rosenkilde og Bagger. 16/304-309.
- Larsson, Mats G. と Staffan Fridell. 2013. "Runristningen på Hovgårdsstenen". Maj Reinhammar (編) . *Saga och sed*. Uppsala: Kungliga Gustav Adolfs Akademien för svensk folkkultur. 95-109.
- Liedgren, Jan. 1980. "Landskap i Sverige". John Danstrup (編) . *Kulturhistorisk leksikon for nordisk middelalder: fra vikingetid til reformationstid*. Köpenhamn: Rosenkilde og Bagger. 10/236-240.
- Lindkvist, Thomas. 2015. "Klerkernas tid 800-1520". Thomas Lindkvist と Maria Sjöberg (編) . *Det svenska samhället: klerkernas och adelns tid 800-1720*. Lund: Studentlitteratur. 27-193.
- 1999. *Plundring, skatter och den feodala statens framväxt: organisatoriska tendenser i Sverige under övergången från vikingetid till tidig medeltid*. Uppsala: Historiska institutionen, Uppsala universitet.
- Palm, Rune. 2004. *Vikingarnas språk 750-1100*. Stockholm: Norstedts.
- Pauketat, Timothy R. 2007. *Chieftoms and other archaeological delusions*. Lanham: Altamira Press.
- Peterson, Lena. 2007. *Nordiskt runnamnslexikon*. Uppsala: Institutionen för språk och folkminnen Uppsala universitet.
- 1994. Peterson. "Runorna som skriftsystem". Solbritt Benneth (編) . *Runmärkt: från brev till klotter, runorna under medeltiden*. Stockholm: Carlsson. 63-74.
- Rosborn, Sven. 2004. *Den skånska historien: vikingarna*. Höllviken: Fotevikens museum.
- 1999. *Den skånska historien: före skrivkonsten*. Höllviken: Fotevikens museum.
- Skansjö, Sten. 1997. *Skånes historia*. Lund: Historiska Media.
- Snædal, Thorgunn. 1994. "Vardagsliv och visdomsord: runorna i Norden från urtid till nutid". Solbritt Benneth (編) . *Runmärkt: från brev till klotter, runorna under medeltiden*. Stockholm: Carlsson. 9-32.
- Varberg, Jaenette. 2017. "Vikingetid". Kurt Villads Jensen と Jeanette Varberg (編) . *Historien om Danmark: oldtid og middelalder*. Köpenhamn: Gads forlag. 180-243.
- Wessén, Elias. 1992. *Svensk språkhistoria I: ljudlära och ordböjningslära*. Edsbruk: Akademytryck.
- Wetterberg, Gunnar. 2016. *Skånes historia I: 1150 f.Kr. - 1375 e.Kr.*. Stockholm: Albert Bonniers förlag.
- Yrwing, Hugo. 1980. "Handelssjöfart". John Danstrup (編) . *Kulturhistorisk leksikon for nordisk middelalder: fra vikingetid til reformationstid*. Köpenhamn: Rosenkilde og Bagger. 6 /158-162.